

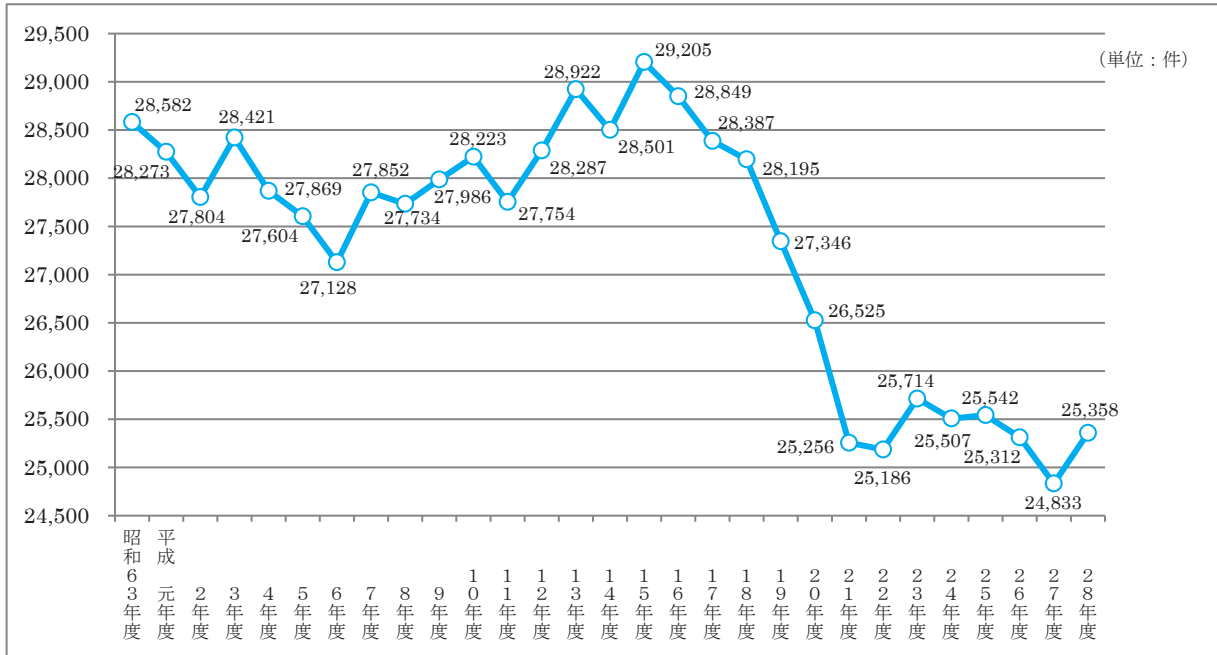
# 公務災害の現況 ～平成28年度認定分（要約版）～

## 1 公務災害の認定状況

### (1) 概要

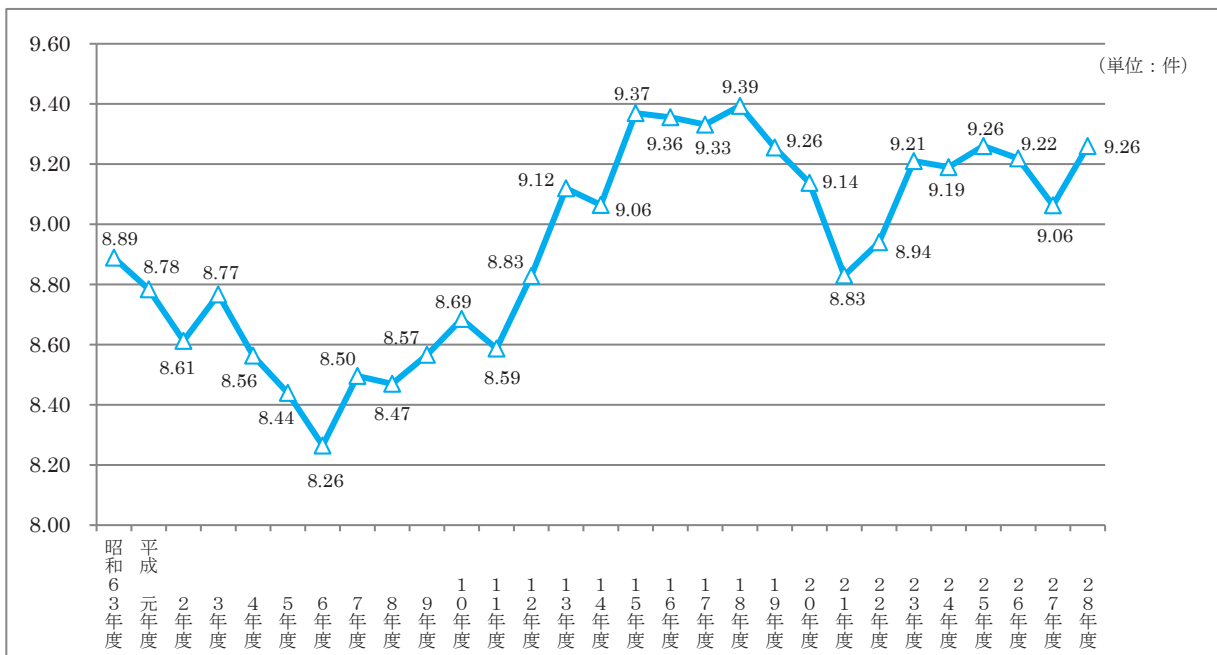
地方公務員災害補償基金が公務災害（通勤災害は含まない。以下同じ。）として認定した件数の推移をみると、平成15年度の29,205件をピークに減少傾向にあり、平成21年度以降は概ね25,000件台で推移している。平成28年度は25,358件で、前年度に比べ525件（2.1%）増加した。

図1 公務災害認定件数の推移



また、地方公務員数が毎年減少している状況を踏まえ、職員千人当たりの公務災害認定件数でみると、平成28年度は9.26件で前年度に比べ0.2件（2.2%）増加した。

図2 公務災害認定件数（千人率）の推移



※千人率の基礎となる職員数は、総務省（旧自治省）「地方公務員給与の実態」各年版による（平成26年度までは教育長を含む）。

## (2) 職員区分別

平成28年度の公務災害認定件数を地方公務員災害補償基金による9職種別の職員区分でみると、「その他の職員」が9,184件で全体の36.2%と最も多く、次いで「警察職員」の5,686件(22.4%)、「義務教育学校職員」の4,619件(18.2%)、「義務教育学校職員以外の教育職員」の2,992件(11.8%)などの順となっている。

図3 職員区分別公務災害認定件数

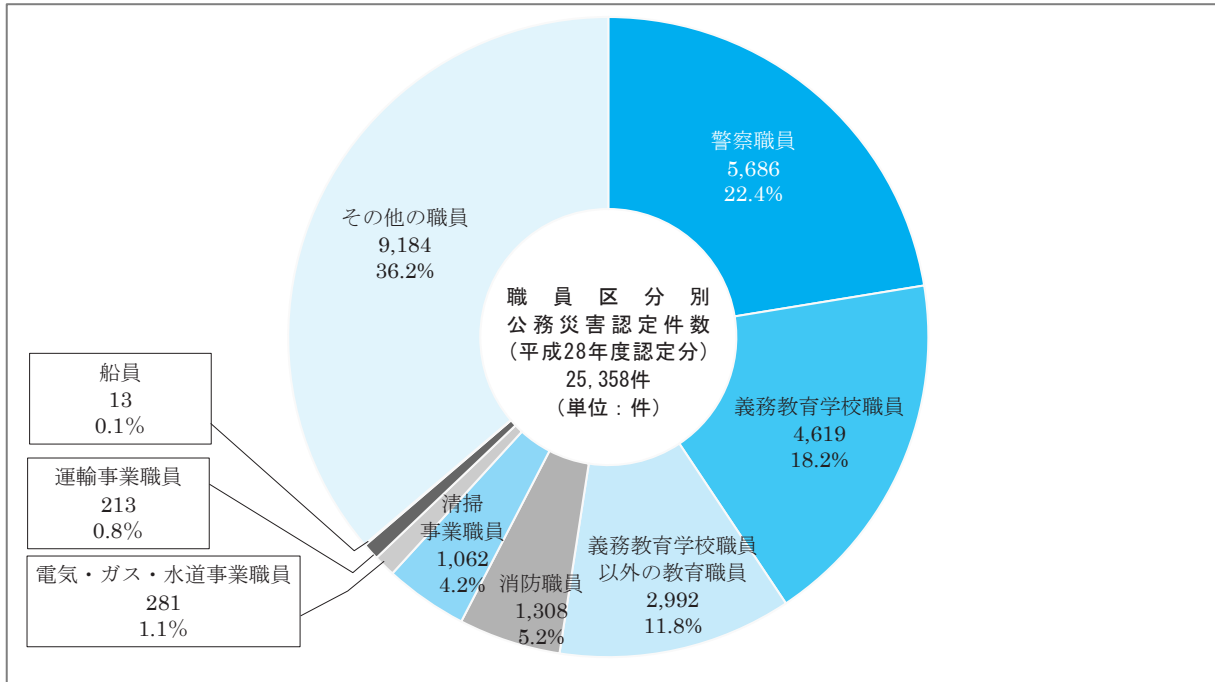
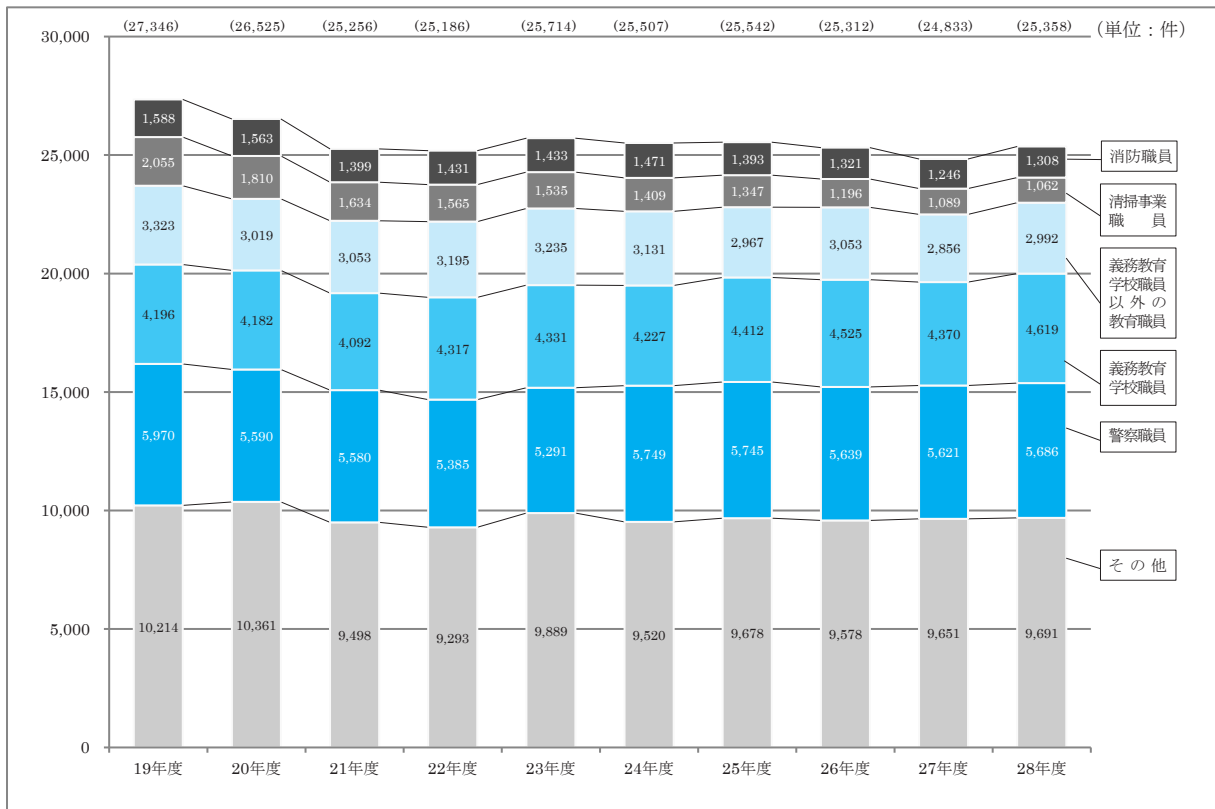


図4 職員区分別公務災害認定件数の推移

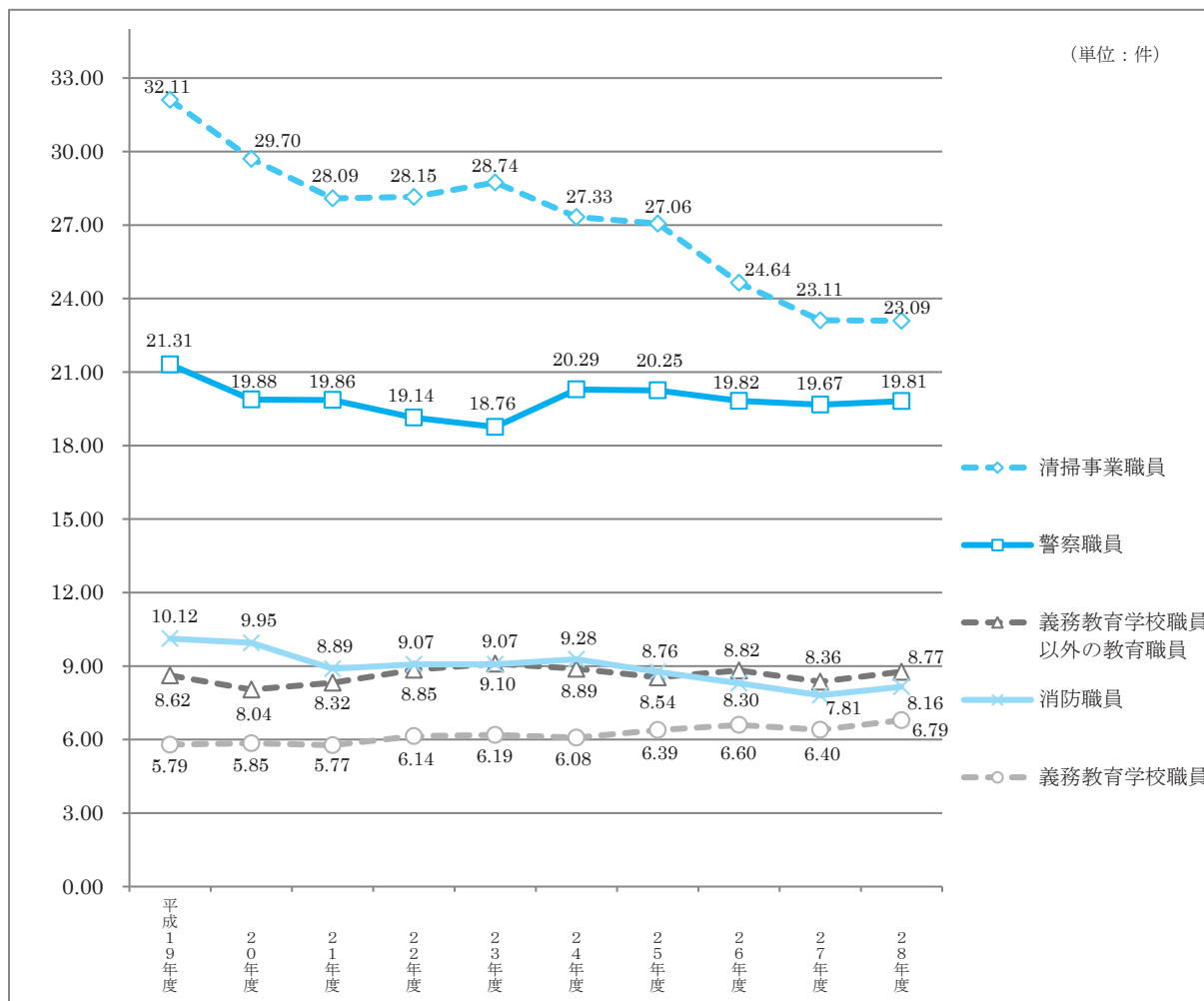


※「その他」…地方公務員災害補償基金定款別表第2の職員区分9区分のうち、「電気・ガス・水道事業職員」、「運輸事業職員」、「船員」及び「その他の職員」を合わせたもの。

また、職員区分別の千人率では、「清掃事業職員」が23.09件で最も高く、次いで「警察職員」の19.81件、「義務教育学校職員以外の教育職員」の8.77件などの順となっている。

「その他の職員」を除いた公務災害認定件数上位5区分（「警察職員」、「義務教育学校職員」、「義務教育学校職員以外の教育職員」、「消防職員」及び「清掃事業職員」）では、「清掃事業職員」が前年度よりも減少し、他の区分はすべて前年度よりも増加している。

図5 主な職員区分別公務災害千人率の推移



※千人率の基礎となる職員数は、総務省「地方公共団体定員管理調査結果」による。

表1 主な職員区分別千人率

主な職員区分	対象職員数 (人)	公務災害件数 (件)	千人率 (件)
清掃事業職員	45,987	1,062	23.09
警察職員	286,971	5,686	19.81
義務教育学校職員以外の教育職員	341,262	2,992	8.77
消防職員	160,327	1,308	8.16
義務教育学校職員	680,265	4,619	6.79

### (3) 職種別

平成28年度の公務災害認定件数を被災職員の職種別にみると、「教育公務員」が6,782件で全体の26.7%と最も多く、次いで「警察官」の5,580件(22.0%)、「その他の職員」の5,011件(19.8%)、「看護師」の2,742件(10.8%)、「消防吏員」の1,312件(5.2%)などの順となっている。

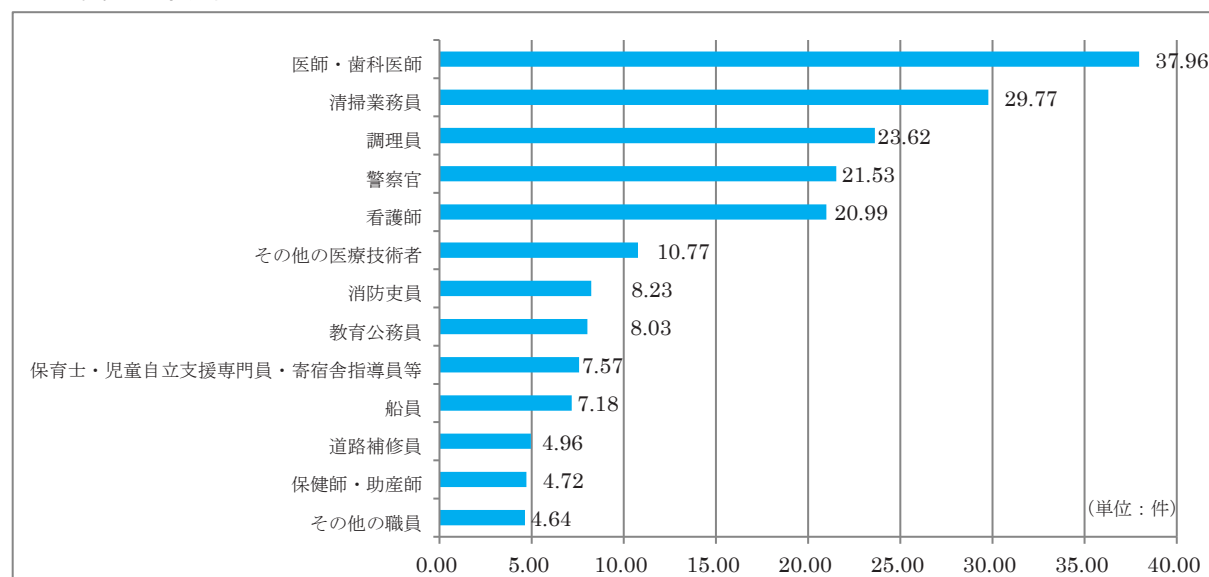
また、千人率をみると、「医師・歯科医師」が37.96件で最も高く、次いで「清掃業務員」の29.77件、「調理員」の23.62件、「警察官」の21.53件、「看護師」の20.99件などの順となっている。

表2 職種別公務災害認定状況

職 種	公務災害認定件数 (件)	構成比 (%)	対象職員数 (人)	千人率 (件)
医 師 ・ 歯 科 医 師	943 -	3.7%	24,845	37.96
看 護 師	2,742 -	10.8%	130,619	20.99
保 健 師 ・ 助 産 師	177 -	0.7%	37,519	4.72
そ の 他 の 医 療 技 術 者	429 -	1.7%	39,851	10.77
保育士・児童自立支援専門員・寄宿舎指導員等	727 -	2.9%	96,025	7.57
船 員	16 -	0.1%	2,229	7.18
電 話 交 換 手	- -	-	431	-
調 理 員	600 -	2.4%	25,406	23.62
道 路 補 修 員	17 -	0.1%	3,426	4.96
教 育 公 務 員	6,782 (8)	26.7%	844,947	8.03
警 察 官	5,580 (7)	22.0%	259,158	21.53
消 防 吏 員	1,312 (17)	5.2%	159,374	8.23
清 掃 業 務 員	1,022 (2)	4.0%	34,326	29.77
そ の 他 の 職 員	5,011 (11)	19.8%	1,080,885	4.64
合 計	25,358 (45)	100.0%	2,739,041	

※ ( ) 内は死亡者数で内数

図6 職種別公務災害千人率



#### (4) 傷病区分別

平成28年度の公務災害認定件数を傷病区分別にみると、「負傷」が23,910件で全体の94.3%と最も多く、次いで「その他の疾病」958件(3.8%)、「負傷による疾病」488件(1.9%)、「その他の死亡」2件(0.01%)の順となっている。

表3 認定事由別・職員区分別公務災害認定件数 (件)

職員区分		義務教育 学校職員	義務教育 学校職員 以外の 教育職員	警察職員	消防職員	電気・ ガス・ 水道事業 職員	運輸事業 職員	清掃事業 職員	船員	その他の 職員	合計	構成比	
負傷	自己の職務遂行中	4,027	2,545	2,512	790	178	159	878	10	7,263	18,362	72.4%	
	訓練中	3	2	2,477	206	-	-	-	-	15	2,703	10.7%	
	担当外の職務遂行中	-	-	3	5	1	-	-	-	5	14	0.1%	
	出張中又は赴任途上	378	263	327	78	58	1	21	2	950	2,078	8.2%	
	出退勤途上(公務上のもの)*1	27	24	43	36	5	28	11	-	93	267	1.1%	
	レクリエーション参加中	21	17	11	8	6	3	2	-	129	197	0.8%	
	設備の不完全又は管理上の不注意	-	3	-	2	-	-	-	-	9	14	0.1%	
	職務遂行に伴う怨恨	1	1	-	-	1	7	-	-	7	17	0.1%	
	その他	26	22	141	9	1	3	3	-	53	258	1.0%	
	計	4,483	2,877	5,514	1,134	250	201	915	12	8,524	23,910	94.3%	
負傷による疾病		79	52	31	31	9	3	68	-	215	488	1.9%	
その他の疾病*2	職業病	4	2	1	7	1	-	1	-	33	49	0.2%	
	脳疾患	3	2	1	2	-	-	-	-	1	9	0.0%	
	心疾患	1	-	2	-	-	-	-	-	2	5	0.0%	
	精神疾患	6	3	4	5	-	3	-	-	16	37	0.1%	
	呼吸器疾患	2	2	7	14	1	1	3	-	46	76	0.3%	
	肝臓疾患	-	-	2	-	-	-	-	-	13	15	0.1%	
	胸腹部臓器疾患*3	-	1	-	1	-	-	-	-	1	3	0.0%	
	食中毒	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3	3	0.0%
	腰痛	15	16	17	30	5	1	13	1	69	167	0.7%	
	頸肩腕症候群	2	-	4	1	-	-	-	-	4	11	0.0%	
	皮膚病	3	7	1	4	4	-	25	-	43	87	0.3%	
	眼疾患	-	8	1	3	3	2	25	-	53	95	0.4%	
	耳疾患	8	1	2	5	-	1	-	-	2	19	0.1%	
鼻疾患	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	13	20	99	68	7	1	12	-	162	382	1.5%		
計	57	62	141	143	21	9	79	1	445	958	3.8%		
その他の死亡*4		-	1	-	-	1	-	-	-	-	2	0.0%	
合計		4,619	2,992	5,686	1,308	281	213	1,062	13	9,184	25,358	100.0%	
構成比		18.2%	11.8%	22.4%	5.2%	1.1%	0.8%	4.2%	0.1%	36.2%	100.0%		

\*1 「出退勤途上」の負傷は通勤災害となるが、深夜に勤務が開始又は終了した場合等には公務上のものとして取り扱われる。

\*2 「その他の疾病」は、負傷による疾病を除く疾病をいう。

\*3 「胸腹部臓器疾患」は、肝臓疾患を除く。

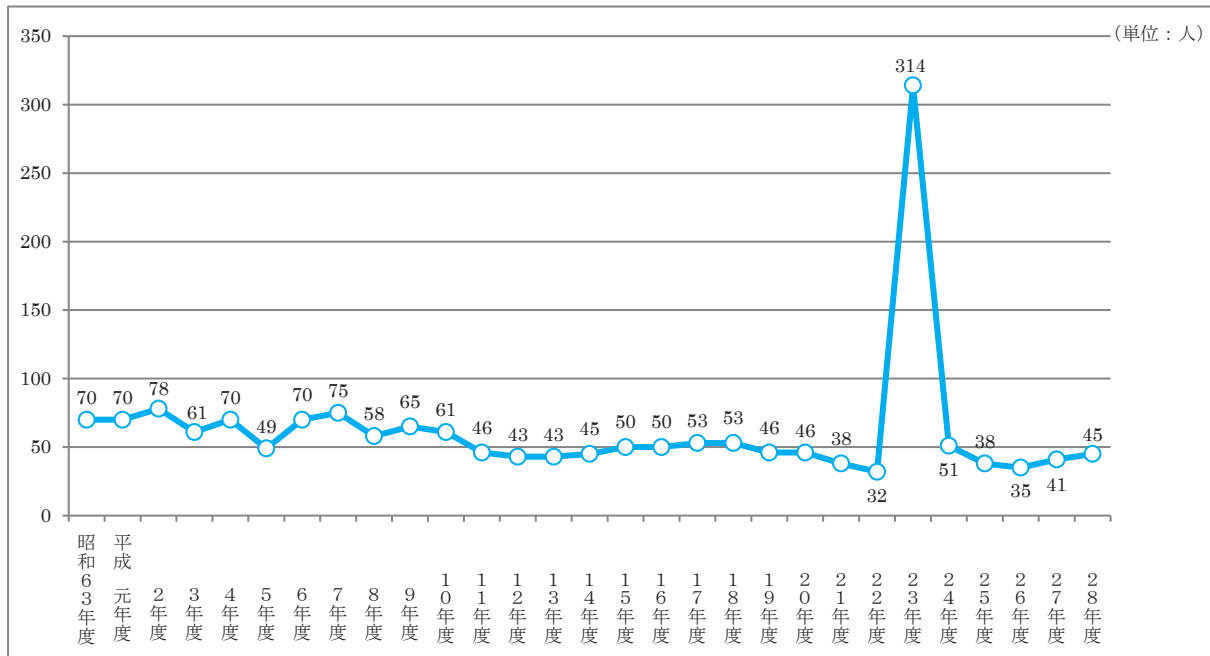
\*4 「その他の死亡」は、公務上の負傷又は疾病によらない死亡をいう。

## 2 公務上死亡災害の状況

### (1) 概要

公務上死亡者数は、平成23年度を除き、平成19年度以降30～50人前後で推移しており、平成28年度の公務上死亡者数は45人で、前年度に比べ4人（9.8%）増加した。

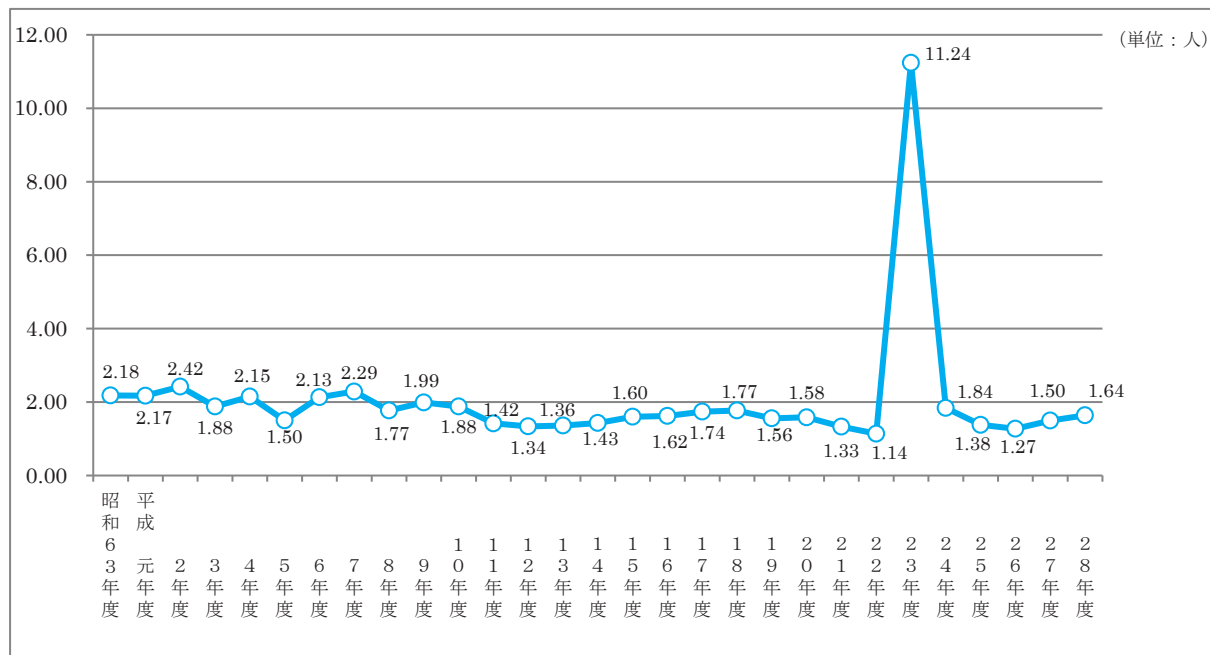
図7 公務上死亡者数の推移



※平成23年度以降は、東日本大震災に起因する公務上死亡者を含む。

職員10万人当たりの公務上死亡者数は、平成23年度を除き、平成8年度以降1人台で推移している。

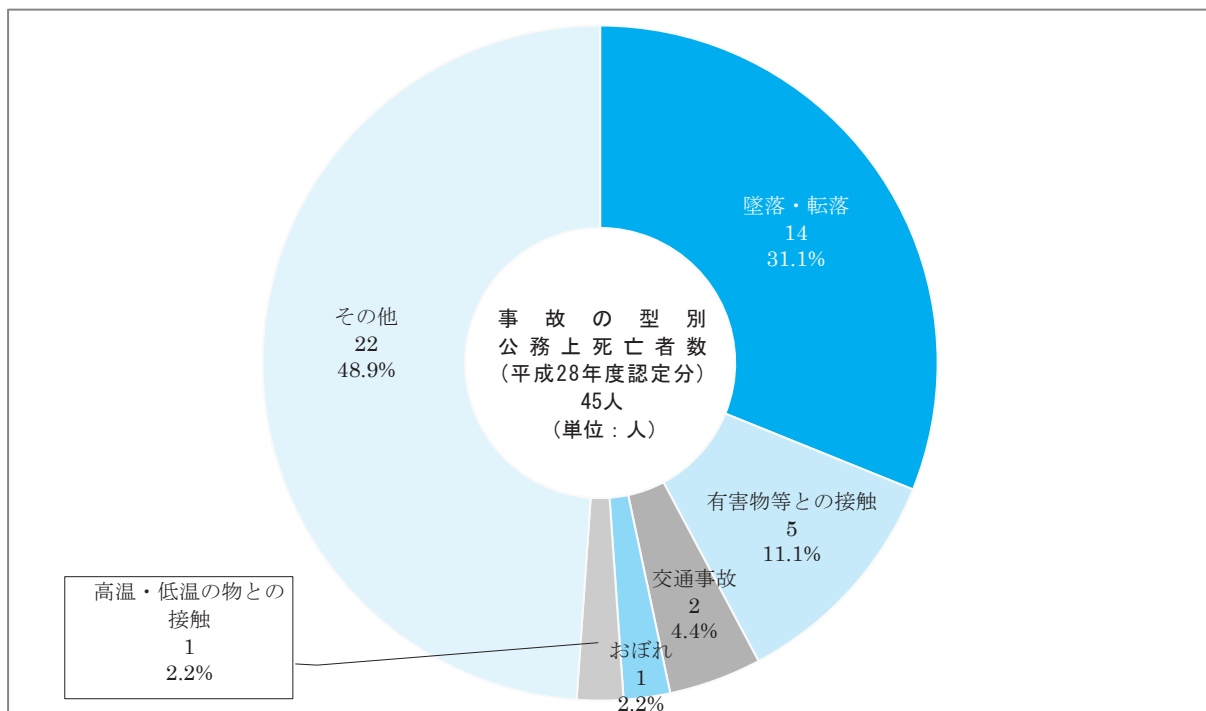
図8 公務上死亡者数10万人率の推移



## (2) 事故の型別

平成 28 年度の公務上死亡者数を事故の型別にみると、「その他」を除くと「墜落・転落」が 14 人で全体の 31.1%と最も多く、次いで「有害物等との接触」の 5 人（11.1%）、「交通事故」の 2 人（4.4%）などの順となっている。

図9 事故の型別公務上死亡者数



過去 5 年間の合計でみると、「その他」を除くと「墜落・転落」が 30 人で全体の 14.3%と最も多く、次いで「交通事故」の 19 人（9.0%）、「有害物等との接触」の 17 人（8.1%）、「おぼれ」の 15 人（7.1%）などの順となっている。

表4 事故の型別公務上死亡者数の推移

(人)

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	合計	構成比
墜落・転落	4	5	1	6	14	30	14.3%
交通事故	5	5	4	3	2	19	9.0%
有害物等との接触	2	6	2	2	5	17	8.1%
おぼれ	8	2	2	2	1	15	7.1%
激突	2	-	2	-	-	4	1.9%
はさまれ・巻き込まれ	2	-	1	1	-	4	1.9%
故意の加害行為	1	2	-	1	-	4	1.9%
転倒	1	2	-	-	-	3	1.4%
飛来・落下	1	-	-	-	-	1	0.5%
崩壊・倒壊	-	-	1	-	-	1	0.5%
高温・低温の物との接触	-	-	-	-	1	1	0.5%
爆発	1	-	-	-	-	1	0.5%
火災	1	-	-	-	-	1	0.5%
その他	23	16	22	26	22	109	51.9%
合計	51	38	35	41	45	210	100.0%

### (3) 職員区分別

平成28年度の公務上死亡者数を職員区分別にみると、「消防職員」が17人で全体の37.8%と最も多く、次いで「その他の職員」の8人(17.8%)、「警察職員」の7人(15.6%)などの順となっている。

また、過去5年間の合計でみると、「その他の職員」が78人で全体の37.1%と最も多く、次いで「消防職員」の38人(18.1%)、「警察職員」の33人(15.7%)、「義務教育学校職員」の25人(11.9%)などの順となっている。

表5 職員区分別公務上死亡者数の推移

(人)

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	合計	構成比
義務教育学校職員	5	6	4	4	6	25	11.9%
義務教育学校職員以外の教育職員	5	2	4	2	2	15	7.1%
警察職員	9	5	6	6	7	33	15.7%
消防職員	5	6	6	4	17	38	18.1%
電気・ガス・水道事業職員	2	5	2	2	1	12	5.7%
運輸事業職員	-	-	-	1	2	3	1.4%
清掃事業職員	1	-	1	2	2	6	2.9%
船員	-	-	-	-	-	-	-
その他の職員	24	14	12	20	8	78	37.1%
合計	51	38	35	41	45	210	100.0%

この資料は、地方公務員災害補償基金「常勤地方公務員災害補償統計」及び「公務上死亡災害の発生状況」に関する調査の結果を分析し、まとめたものです。

なお、各図表中における構成比の数値は、単位未満を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

平成30年3月

一般財団法人 地方公務員安全衛生推進協会

〒102-0083

東京都千代田区麹町3-2 垣見麹町ビル3階

電話 03-3230-2021 FAX 03-3230-2266

URL <http://www.jalsha.or.jp>